

主張

●鉄鋼労災多発

新日鉄名古屋製鉄所でガスタンクが爆発し、十五人が負傷した事故は、一歩間違えば大惨事になりかねない重大な災害でした。

市民に衝撃が走ったにもかかわらず、会社は消防署にも市役所にも通報せず、市民の通報で消防署が電話して初めて会社は出動を要請する始末でした。すでにガス漏れを何回も検知し、原因が施設の老朽化にあると労働者が指摘したのにすぐ修理には至らず、安全点検もかつては専門知識のある者がしていたのに、人減らしで今は労働者が仕事の合間にするなど、会社の重大な責任が明らかになっていきます。原因の徹底究明と災害をなくす安全対策を求めます。

今年十四人が犠牲に

重視しなければならぬのは今

年、鉄鋼大手で重大災害が多発して

いることです。新日鉄八幡で溶鋼鍋が傾き千六百度の溶鋼が流出し一人が黒焦げになって死亡し二人がやけどを負う悲惨な災害をはじめ、新日鉄で六人が死亡しています。鉄鋼全体では八月末までに十四人が犠牲になっており、二十人が死亡した昨年

除くに激減しました。

これによって不況下でも高収益をあげてきた上に、さらに競争力強化の「中期連結経営計画」によって、〇五年度には〇二年度の三倍以上の経常利益を見込んでいるのです。その陰でいかに安全が犠牲にされたことが、多くの仕事が一作業と

なるほど多忙です。

許しがたいのは、行政も鉄鋼の安全徹底を指導してきたのに、無視されていることです。鉄鋼の死亡災害が多発するため、経済産業省は昨年十月、厚生労働省は今年五月、それぞれ日本鉄鋼連盟にたいし、労働災害防止対策の徹底を要請する異例の指導文書を出していた

ルや「安全唱和」など労働者へのしめつけを強めることばかりです。

しかも、新日鉄名古屋の爆発事故に見るように、関係機関にも通報しない閉鎖的な体質と事故原因の究明もしないまま操業再開を急ぐ生産優先の姿勢は、企業の社会的責任も投げ捨てるものであり許されません。

利益優先で人命を軽んじるな

のです。

の同時期を上回る異常な状況です。なぜこんなに重大災害が多発するのか。その根底には、利益最優先のリストラ・人減らしがあります。

新日鉄の場合、八七年に六万五千人いた労働者は、五次にわたる徹底した人減らし「合理化」によって、いまや約一万六千五百人(出向者を

非常事態が発せられるのは、口では「安全最優先」とい

ながら、もっぱら労働者の「安全意識」の問題にして、根本的な対策を回避し、生産優先に走る根深い姿勢が根底にあるからです。

実際に職場では、労働者の「注意力」「意識」の強化などが対策の中心であり、職制による安全パトロー

抜本的な安全対策を

職場労働者は、作業している現場の声を安全対策に生かすこと、安全で技術の伝承が可能な適正な要員配置、安全意識だけに頼らない設備上の安全対策などを求めています。

労働者の安全と健康を確保することは企業の責任であり、大企業は重大災害を絶滅するために抜本的な対策をとるべきです。政府は監督と指導を徹底することを強く求めます。